



はぐくみ

《学校教育目標》 ゆたかな心とたくましい体をもつ子どもの育成

立花北小 校長室だより

令和6年1月17日発行

No.10「継続は力なり」

発行者：校長 佐野 正信

継続は力なり

阪神淡路大震災から10年後の平成17年3月20日、九州沖の玄界灘を震源とする「福岡県南西沖地震」が発生しました。最大震度6を記録したこの地震の発生は午前10時53分。ちょうど現地の小学校では、3校時の授業中でした。その瞬間、子どもたちは泣き叫び、その場にいた担任の教員たちも慌てふためきました。その時です。一人の女の子が叫びました。「何をしてるの！机の下に早くかくれて！」結局この叫び声をきっかけに、みんなが机の下にもぐり、無事に地震をやり過ごすことができたのだそうです。当時3年生だったその女の子は、家族の都合で兵庫県から福岡に引っ越した子でした。決して活発な子ではなく、どちらかと言えばおとなしいタイプの子だったので、担任の先生も友だちもびっくりしたそうです。この女の子は、1歳の時に阪神淡路大震災を神戸で経験していますが、幼かったため記憶にはほとんど残っていないといいます。ただ、小学校に入学して行われる防災教育と地震避難訓練を受けていたため、「グラッときたら机の下へ」という行動をしっかりと身に着けていました。福岡ではそれまで大きな地震がなかったそうで、校長先生は「兵庫県から転校してきた女子児童の姿に、訓練の大切さを学びました。」と現地メディアのインタビューに答えています。

あの阪神大震災から29年。今年も立花北小では「1.17は忘れない地域防災訓練」を行いました。今年は、市の訓練も兼ねているため、あまりゆっくり子どもたちにお話しする時間がありません。よろしければ、次のようなことをご家庭でも話題にしてみてくださいと有り難いです。

① 日本という国に住んでいる限り「地震」は必ずまたやってくる！

震災の時、こんな地震は二度と起こってほしくないと思いましたが、しかし、長い長い地球の成り立ちの中で地震を繰り返してこの大地ができてきたことを思うと、また必ず地震はやってきます。人間の力で地面をおさえることはできませんから、起きたらどうしようと心配したり、起きないように祈ったりしても仕方ありません。この国では必ず地震が起こるのであれば、その時にどのように自分の身を守るかを考えておくことが大切です。毎年、震災学習や避難訓練をするのもそのためです。

② 「地震」は、いつ、どこでどのように起きるかわからない

地震の時、先生やお家の人が近くにいるとは限りません。たとえその場所に自分一人しかいなくても、ちゃんと正しい行動がとれるようにしっかり学ぶことが大切です。平成30年に発生した大阪府北部地震では、登校途中に倒れてきたブロック塀の下敷きとなり、小学生が犠牲となりました。ヒトは、直下型の下から突き上げられる揺れに見舞われた時、とっさに身構えてしまう、あるいは座り込んでしまうという習性があるそうです。阪神淡路大震災では、縦揺れの次にやって来る横揺れにより、鉄道や駅、高速道路などがもろくも崩れ落ちました。倒壊した建造物によって命を奪われることがないように、走って建物や塀から離れる行動をとるとするのは、日頃から考えておかなければ急にはできません。

③ その瞬間、とにかく生き延びること

29年前の阪神淡路大震災の時、お父さん、お母さんの多くはまだ子どもでした。地震のあと、学校で初めて顔を合わせた時、「大丈夫やった？」とみんなで抱き合っただけでよかったです。話を聞くと、多くの子がこう話



しました。真っ暗で何が起きたか全然わからなかったけど、お父さんやお母さんが覆いかぶさって守ってくれたよ。」皆さんからすると、じいちゃんやおばあちゃんたちです。もしこのときに倒れたタンスや落ちてきたテレビなどで皆さんのお父さんやお母さんが亡くなっていたとしたら、今、皆さんはここにいるでしょうか。いないのです。命というのはつないでいくもの。もし途切れたら、そのあとに続く命もなくなってしまうのです。だから、地震が起きたとき、皆さんには何が何でも生き延びてほしいと思います。自分の命を大切にしてほしいと思います。皆さんの命にもしものことがあったら、お父さんやお母さん、先生たちは悲しくて生きる気力もなくなってしまいます。このことは、地震に限ったことではありませんよ。どんな時もひとつしかない「自分の命」「お友達の命」「みんなの命」を大切にしてほしいと思います。